

方向に設けられた水路をいう。構造は簡単なものは古まくらぎで造られたものもあるが、普通はコンクリート・雑石練積または雑石空積のものが多い。形はU字形のものが多く、まれには半円形のものもある。延長が長い場合は、すべり出しを防止するためにすべり止めを設けている。(尾崎 寿)

たてこう 立坑 地面から垂直に掘きした坑道で横坑・斜坑と対照的にいわれる。使用目的は横坑とほぼ同様である。(松島 甫)

たてホーム 縦ホーム 自動車等の車両類を取扱うための特殊なホームで、線路と直角に設けられる。その幅員は1線に対し、4~5mを標準とし、その水平部の延長は最小5mで、登掛を設ける場合は、その勾配は $\frac{1}{10}$ を標準とする。なお高さは1,020mmとし、必要によって舗装する。(近藤正弘)

たてやまかいはずつどう 立山開発鉄道

1 事業者の概要

名称 立山開発鉄道株式会社, 本社 富山市新桜町, 資本金 32,500万円, 地方鉄道7.1km, 従事員12人, 保有車両 電動客車1, 制御客車2, 貨車2両。



沿革 昭和27・

4・1 会社設立, 同29・4・1 富山地方鉄道株式会社より小見・粟巣野間の開業線および粟巣野・芦峯寺間未成線をゆずり受け, 昭和27・8・13 千寿ヶ原・美女平間鋼索鉄道の免許をうけ, 同29・8 全線営業開始す。

2 運輸概況

項 目	年 度	昭 和 29	30
旅客輸送人員(千人)		227	353
人 キ ロ (千)		950	1,459
貨物輸送トン数(千t)		5	5
ト ン キ ロ (千)		23	20
旅客収入(千円)		5,979	13,727
貨物収入(〃)		791	1,560
運輸雑収(〃)		17	248
取 入 合 計(〃)		6,787	15,535
営 業 費(〃)		4,652	15,651
営 業 利 益(〃)		2,135	△ 116
営 業 係 数(%)		69	100

3 地方鉄道線

富山地方鉄道立山線に連絡, 単線・動力電気・軌間 1,067m, 旅客・貨物運輸を目的とする。小見・立山仮駅間(富山県) 5.8km, 昭和11・5・6 免許, 同12・10・1 小見・粟巣野間を, 同30・7・1 粟巣野・千寿ヶ原駅間を運輸開始。千寿ヶ原・美女平間 1.3km (鋼索鉄道) 昭和27・8・29 免許, 同29・8・13 運輸開始, 小見・千寿ヶ原駅間は富山地方鉄道へ運転管理を委託。鋼索線は冬季降雪時毎年運輸営業を休止する。

4 運輸, 車両等の特長

本鉄道の輸送は主として常願寺川水系の電源開発のための人員, 資材および立山への観光旅客にかぎられている。また鋼索鉄道には, 自動車車両等大形貨物の輸送可能な貨物車を有し, これは鋼索鉄道としては唯一の施設である。

5 観光地

中部山岳国立公園立山。彌陀ヶ原(美女平駅)。(嵯峨野福次)

たとうがたしんごうき 多灯型信号機 (英) multiple optical signal (独) mehrteiliges Lichtsignal (仏) signal à lampes multiple 色灯式信号機には緑・橙黄・赤色の信号現示をする灯器が別別になっているものと, 1個の灯器から, それらの色を現示するものと2種類ある。前者を多灯型(写真-1), 後者を単灯型信号機という。多灯型信号機の機構は背板・ひさし・灯箱によって構成され, 背板とひさしは鉄板である。背板は灯光が周囲の状態によって弱められることを防ぎ, ひさしは日光がレンズに直射するのを防ぐ。灯箱およびふたは鋳鉄製で, 灯箱は各灯ごとに仕切られている。各灯器は2枚の組合せレンズと電灯座を有し, 電灯座はレンズの焦点に電球の繊維中心を一致させるよう, 上下および前後左右の調整装置がある(写真-2)。

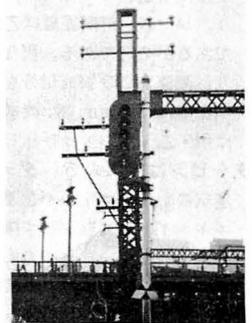


写真-1. 多灯型信号機(5 現示)

2枚の組合せレンズは外側に内面段付の無色レンズ, 内側に色付の外面段付レンズを配している(図-1)。この組合せレンズは, 電球から出る光線を能率よく平行光線として放射する。

これに使用する電球は 30V 40W の小電球であるが, この組合せレンズをとおすと約300倍の強さに拡大されるから, レンズの正面方向では9,000 燭光くらいになる。これによって昼間においても800m 以上の確認距離を有する。電球は一般の照明用電球にくらべて小型であるが, 色灯式信号機では最も重要であるから, その構造には細心の注意が払われている。

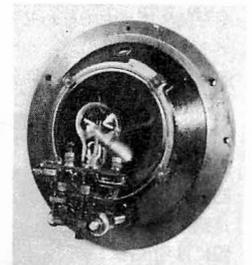


写真-2. 多灯型信号機焦点調整装置

* 信号レンズ。* 信号電球。
信号はすべてルートシグナル, すなわち前途区間の状況を現示するものであるが, 最近ではスピードシグナル, すなわち列車の速度を指示する信号方式が採用されてきた。このため今までの多灯型信号機は2 現示または3 現示であったが, 現在では4